

平成22年度事業成果報告書（長期優良住宅等推進環境整備事業）

事業分野 住替え・二地域居住を促進するための文化資源を活用した地域の活性化を図るモデル事業	
事業名 那賀町くらし体験モデル事業（定住・二地域居住促進）	事業主体名 特定非営利活動法人阿波農村舞台の会
1 事業のあらまし (1)事業概要 徳島県那賀郡那賀町は、徳島市内から車で約2時間、京阪神からも車で3～4時間という立地にあり、都会にない昔ながらの温かい地域コミュニティや生活文化が色濃く残されている。中でも拝宮地区は、江戸時代から和紙の産地として栄え、戦後間もない昭和20年代に地域の住民が資金を出し合って建てた床面積350㎡、2階建て杉皮葺きの風情ある和紙工場が今も残されている。 徳島県内には、神社の境内に人形浄瑠璃を奉納するための農村舞台が全国で最も多く残されているが、拝宮地区の鎮守の森には、規模やロケーション、保存状態とも県内屈指の人形芝居の舞台が残り、毎年、阿波人形浄瑠璃の公演が行われている。かつては40体以上の人形を有する拝宮人形座が活躍していたことから、今も地元の有志が「えびす舞」と呼ばれる演目を伝えている。また、柚子や干し柿の産地としても有名であり、棚田や段々畑、村を流れる谷川、点在する民家が美しい景観を形成するなど、豊かな文化資源に恵まれた地域である。 都市部では近年、団塊の世代を中心に「田舎暮らし」をしたいという願望や、自然環境豊かな土地で「子育て」をしたいというニーズが広がっている。また西欧文化偏重に対する反省から、地域の生活に根ざした文化資源への関心が高まってきていることから、農村舞台での人形浄瑠璃公演や手漉き和紙に関わる生活文化、柚子や干し柿といった食文化などは、都市部の人々を惹きつける観光資源となり得る可能性を秘めている。 このような状況を踏まえて、拝宮和紙・井本紙漉場における手漉き和紙研修会を中心に、那賀町の文化資源を活用し、定住・二地域居住の促進を図ることにより、過疎、高齢化の進む那賀町の活性化につなげていく。	
(2)実施期間 平成22年7月15日～平成23年3月18日	
(3)事業に要した経費 総事業費:5,022,851円 補助金の額:5,000,000円	

2 事業実施結果

(1)手漉き和紙研修会

広く一般に和紙の魅力を伝えるため、伝統的な技法による手漉き和紙の製作体験と藍染め和紙の制作や行灯やポチ袋、便箋など和紙の使い方を提案する研修会を毎月1回のペースで実施した。昼食には、那賀町の特産品である柚子をつかった郷土料理を提供するなど、食の魅力も併せて楽しんでもらうことにより、那賀町の文化的な魅力を体験してもらうことを目指した。

①山里で和紙を漉く

日時／平成22年7月24日(土)、25日(日)10:00～16:00

参加者／8名

研修内容／白皮づくり、煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥

②手漉き和紙研修会「拝宮和紙＋阿波藍」

日時／平成22年8月21日(土)、22日(日)10:00～16:00

参加者／9名

研修内容／煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥＋先染めの和紙づくり

③手漉き和紙研修会「拝宮和紙＋阿波藍2」

日時／平成22年9月25日(土)、26日(日)10:00～16:00

参加者／6名

研修内容／煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥＋先染めの和紙づくり

④手漉き和紙研修会「拝宮和紙のあかり」

日時／平成22年10月24日(日)10:00～16:00

参加者／4名

研修内容／煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥＋行灯づくり

⑤手漉き和紙研修会「木頭ゆず＋拝宮和紙」

日時／平成22年11月23日(火・祝日)10:00～16:00

参加者／3名

研修内容／煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥＋柚子狩り、ラベルづくり

⑥手漉き和紙研修会「ぼち袋づくり～拝宮和紙で包む私の気持ち」

日時／平成22年12月19日(日)10:00～16:00

参加者／4名

研修内容／煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥＋ぼち袋づくり

⑦手漉き和紙研修会「楮の刈り取り・和紙の漉き初めり」

日時／平成23年1月9日(日)10:00～16:00

参加者／5名

研修内容／楮刈り取り、抄紙、脱水、乾燥＋藍染め和紙

⑧手漉き和紙研修会「えびす舞の福を届ける便箋づくり」

日時／平成23年2月26日(土)10:00～16:00

参加者／3名

研修内容／煮熟、ちりより、叩解、抄紙、脱水、乾燥、木版画による便箋製作

(2)手漉き和紙体験受入

楮(コウゾ)の黒皮をむく作業から始め、傷んだ部分を手で取り除く「ちりより」、繊維を叩いてほぐす「叩解(こうかい)」、紙漉き、乾燥まで、伝統的な製法をひとつとおり体験してもらう「手漉き和紙体験コース」を、随時受け入れた。

また、1月には、楮刈り、2月には白皮づくりのボランティアを受け入れた。

7月／H22.7.30 5名

8月／H22.8.9 6名

9月／H22.9.24 3名

10月／H22.10.11 8名

11月／H22.11.21 22名(縁結びの会)

H22.11.26～27 7名

1月／H23.1.8 15名(楮刈りボランティア)

H23.1.20 2名

2月／H23.2.5 19名(白皮づくりボランティア)

H23.2.19 12名(白皮づくりボランティア)

H23.2.21～22 2名

H23.2.27 4名

3月／H23.3.5 4名

(3)学校との連携

地元の上那賀中学校、桜谷小学校の生徒を受け入れ、地元の伝統産業であった手漉き和紙づくりを体験してもらった。上那賀中学校の3年生は、卒業証書を自分で漉くことを目標に和紙づくりに取り組んだ。

平成22年7月13日(火)9:00～15:00 桜谷小学校3年生 16名

平成22年11月1日(月)9:00～15:00 上那賀中学校2年生 16人

平成22年11月8日(月)9:00～15:00 上那賀中学校1年生 7人

平成23年1月17日(月)9:00～15:00 上那賀中学校3年生 18人

(4)海外からの研修生受け入れ

吉本愛里(バンコク在住)

英国エジンバラ美術大学を目指しているバンコクの高校生を夏休み期間中に研修生として受け入れ、手漉き和紙の技術習得、研修会のサポートなどを学んでもらった。

・受け入れ期間 平成22年7月8日(木)～8月15日(日)

(5)その他

(6)手漉き和紙体験施設のPR

①井本紙漉場パンフレット印刷、配布

- ・10,000部印刷
- ・規格／A5版6ページ、カラー
- ・配布先／マスコミ、タウン情報誌、県内各市町村教育委員会、図書館、博物館、美術館、文化会館、県外雑誌社、県外文化施設、阿波藍×未来形プロジェクト展、かんさいフラワーショーでの配布等
- ・内容／那賀町拝宮地区の文化資源、手漉き和紙体験研修の案内、和紙の魅力、アクセス案内等

②阿波農村舞台通信の印刷、配布

- ・平成23年1月31日発行、2000部印刷
- ・規格／A4版8ページ、カラー
- ・配布先／マスコミ、タウン情報誌、県内各市町村教育委員会、図書館、博物館、美術館、文化会館、県外雑誌社、県外文化施設等
- ・内容／那賀町拝宮地区の文化資源、井本紙漉場の案内、農村舞台の魅力等

③イベント、企画展への出展

●「阿波藍×未来形プロジェクト展」への出展

徳島県と文化立県とくしま推進会議が主催する標記の展覧会に出展し、井本紙漉場のPRを行った。

- ・展示期間 平成22年10月31日(日)～11月8日(月)
- ・会場 藍商佐直「吉田家住宅」(徳島県美馬市脇町)
- ・来場者／約1000人
- ・出展内容／吉田家住宅2階の窓際の文机の上に、藍染め和紙の便箋、封筒、行灯、藍染め座布団、筆、硯、文鎮により、書きかけの手紙を展示

●かんさいフラワーショーへの出展

徳島ならではの文化的魅力を県外で発信するため、「かんさいフラワーショー2010」のブースを借り上げ、藍染め、和紙、柚子など植物由来の文化資源を出展するとともに、井本紙漉場のパンフレット、手漉き和紙研修会のちらしを配布した。

- ・開催期間／平成22年11月19日(金)～21日(日)10:00～17:00
- ・会場／大阪市鶴見区緑地公園 花博記念公園鶴見緑地水の館ホール
- ・出展内容／那賀町の文化資源ポスター、藍染めポスター、井本紙漉場パンフレット、藍染め和紙便箋、封筒、行灯、藍染めストール、藍染めコースター、柚子玉、柚子みそ、柚子ジャム、柚子畑写真、藍の種、乾燥藍
- ・来場者／約7万人

●徳島県ゆずクラスター事業「木頭ゆずは“徳島”の香りです。」

・開催期間／平成22年11月17日(水)～18日(木)

・会場／ふるさと情報プラザ(東京都千代田区有楽町)

・出展内容／徳島県が主催するゆず製品の物産展、中野健吉写真展に参加し、井本紙漉場のパンフレットを配布した。

④移住交流イベント「もんでこい丹生谷」の開催

那賀町では「那賀町移住交流センター」がUターンの窓口として稼働しており、昨年は有志の実行委員会によるUターン推進イベント「もんでこい丹生谷」を東京で行うなど、都市圏にも積極的に情報発信をし、Uターンへの感心が高まっている。平成22年度は、那賀町移住交流センターとの連携のもと、移住・交流を目指している人々を対象に、那賀町でイベントを開催し、拝宮和紙・井本紙漉場や農村舞台、阿波人形浄瑠璃、柚子などの郷土食などの璃情報発信を行うことにより、那賀町ファンを増やし、二地域居住・定住促進のためのPRを図った。

・開催日時／平成22年10月10日(土)11:30～

・会場／那賀町相生体育館(那賀町延野字大原138番地)

・参加者／110人

・内容／ミュージカル、人形浄瑠璃、阿波踊り、郷土料理会食等

(7)手漉き和紙の新たな魅力づくりの検討

手漉き和紙体験施設の運営を継続していくためには、和紙の魅力と現代の生活における和紙の活用方法を積極的に提案していくことが不可欠である。このため、手漉き和紙の各工程をできるだけ多く体験してもらう本格的な手漉き和紙研修会に加えて、日常生活の中における和紙の魅力ある活用方法を楽しみながら学べるカリキュラムを検討し、研修会の企画に反映した。

また、体験研修の実施に加えて、手漉き和紙の新たな用途を検討し、現代の生活にマッチした魅力ある手漉き和紙製品、特に、地域の風土や歴史に根ざした文化的な物語性を有するオリジナリティにあふれる製品開発に向けた検討を行った。

2 事業の成果

(1)地域の文化資源の可能性の検証

地域の文化資源は、その土地ならではの風土や歴史によって育まれた独自性を有しており、距離や時間、経費に関わらず、広範囲から多くの人を惹きつける強い求心力を持っている。定住、二地域居住に踏み切るためには大きな決断が必要であるが、それを後押しする重要な要素として、手漉き和紙や農村景観、食文化、伝統芸能など地域の文化資源を活用する事業を実施した。その結果、徳島市内から約2時間という不利なロケーションの井本紙漉場の手漉き和紙研修会に、県外客も含む多数の参加があるなど、地域の文化資源が、まちづくりや経済面の活性化につながる可能性を有していることが検証された。

(2)研修会のカリキュラムのストック

- ・1日(約6時間)の研修会で、地元産の楮を使い、皮剥きから乾燥まで伝統的な技法で和紙を製作する基本のカリキュラムを完成させることができた。
- ・半日コースとして、紙漉～乾燥までのカリキュラムを作成した。
- ・現代の生活や居住空間において手漉き和紙が登場するシーンはほとんどなくなってしまったことから、デザイナー等専門家の協力も得ながら、オリジナルの行灯やぼち袋、便箋など和紙の魅力ある使い方の提案を行うカリキュラムをつくった。
- ・徳島ならではの和紙の製作を目標として、阿波藍を使い、天然灰汁発酵建てという伝統的な技法を用いた藍染め和紙の製作カリキュラムをつくった。

(3)地域の協力体制の整備

手漉き和紙研修会を実施するに当たり、講師や実習の補助者、研修会の準備などで地域住民の協力体制ができた。また、昼食の準備については、近隣の部落からも協力をいただき、柚子酢をつかったちらし寿司(かきまぜ)や酢の物など郷土色豊かな食事を提供することができた。

(4)拝宮和紙・井本紙漉場ホームページの開設、運営

URL <http://www.nousonbutai.com/imoto-kamisukiba/index.html>

- ・井本紙漉場の歴史
- ・手漉き和紙ができるまで
- ・手漉き和紙体験
- ・イベント情報～手漉き和紙をもっと楽しむ
- ・ご宿泊案内、交通案内
- ・ご予約・お問い合わせ
- ・拝宮谷だより(ブログ)
- ・拝宮の風景(写真集)
- ・徳島で暮らす～移住・定住をお考えのみなさまへ

3 今後の課題・方向性

●今後の課題

(1)体制の充実

①後継者の育成

那賀町拝宮地区は、江戸時代から手漉き和紙の産地として栄えたが、昭和20年代をピークに衰退の一途をたどり、現在、手漉き和紙の技術を伝える人は、わずか数名となっている上に、伝承者の高齢化も進み、後継者の確保が喫緊の課題である。また、拝宮地区は、過疎化、高齢化が著しく、地区内で後継者を育成するのは困難な状況である。

②指導者の確保

都市部からの体験参加者に、わかりやすく説明しながら研修会を進行することのできる指導

者の養成も不可欠である。

(2)県外へのPR

手漉き和紙は、日本人の感性を形づくってきた極めて高い文化性を有するとともに、今となつては希少性も高くなっていることから、少数ではあるが高い関心を有する層もいる。手間暇をかけた本物の良さを理解できる人々に向けて的確な情報を届けることができれば、時間や経費をいわずにピーターとなってくれる顧客の獲得も可能である。そのためにはホームページやメディアを通じた質の高い情報を県内外に向けて広く発信していくことが不可欠である。

(3)和紙製品の開発

紙漉場の維持管理費、研修用道具の調達、鎌や包丁、消耗品、通信費、テキスト等印刷費、広報経費、ボランティアスタッフの日当や交通費など、手漉き和紙研修会の実施に当たっては相当な経費が発生する。このため安価な受講料で、広く伝統工芸の魅力を伝えていくためには、オリジナルの和紙製品を開発して収益を得ていくことも検討する必要がある。

●今後の方向性

(1)体制の充実

町内外から希望者を広く公募し、継続的な専門研修を実施し、その中から拝宮和紙の後継者や研修会の指導ができる人材を養成していく。

(2)県外へのPR

多くの経費をかけずに効果的なPRを行うには、ホームページを通じた情報発信が最適である。また、全国に多数ある産地の中で差別化を図るため、井本紙漉場の優れたロケーションや拝宮地区の他の文化資源の情報を併せて、地域の総合的な魅力を発信していくことが重要である。

(3)和紙製品の開発

越前、美濃、土佐、石州などが和紙の世界のブランド産地であり、文化財の修復にも使われ、日本画や版画、書道用紙をはじめ、便箋や封筒、名刺に至るまで様々な和紙製品が販売されている。そうした中、全国的には無名の拝宮和紙製品が対抗していくためには、これまでにない新たな視点の製品開発が必要である。

その一つの方向性が、文化的なストーリー性を前面に出していくことであると考えている。拝宮地区には、かつて徳島県内でも有数の人形座が活躍し、白人神社の境内には堂々たる人形芝居用の舞台が現存し、毎年公演が開催されている。また、全国第2位の柚子の産地であり、良質の干し柿や杉も有名である。これらの文化資源と絡めたストーリー性のある和紙製品を検討していく必要がある。